

経営比較分析表（平成29年度決算）

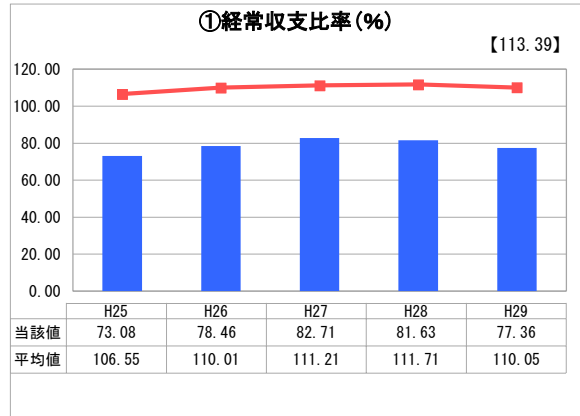
兵庫県 香美町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家底料金(円)	
-	55.53	99.71	2,538	

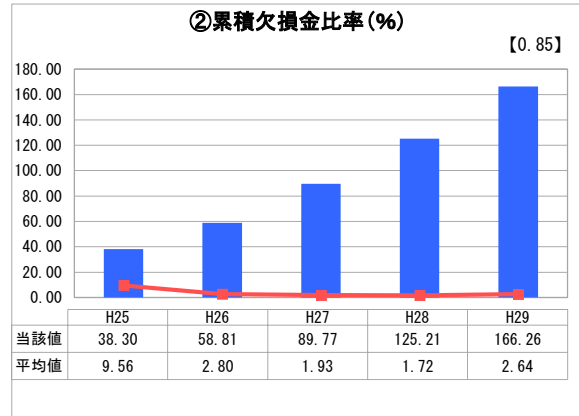
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,176	368.77	49.29
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,973	150.94	119.07

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

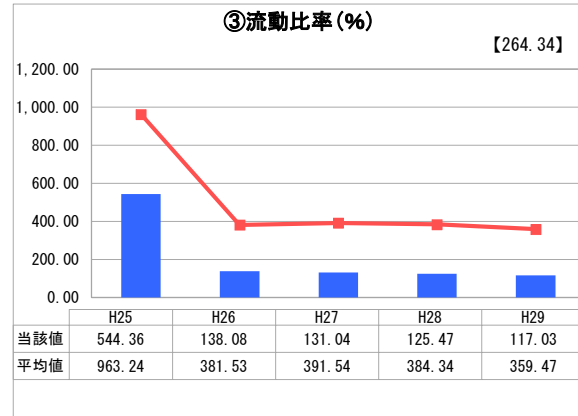
1. 経営の健全性・効率性



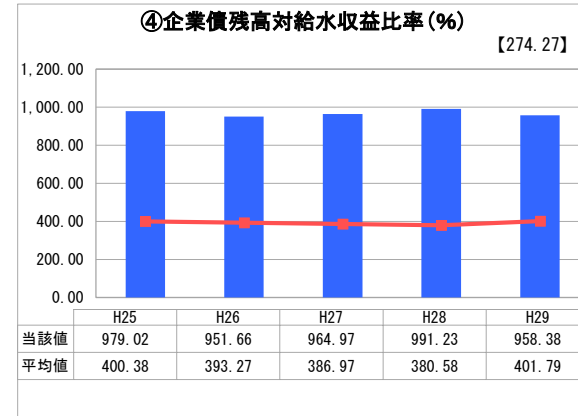
「経常損益」



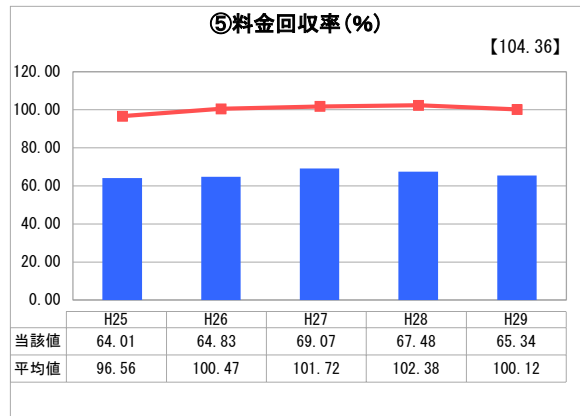
「累積欠損」



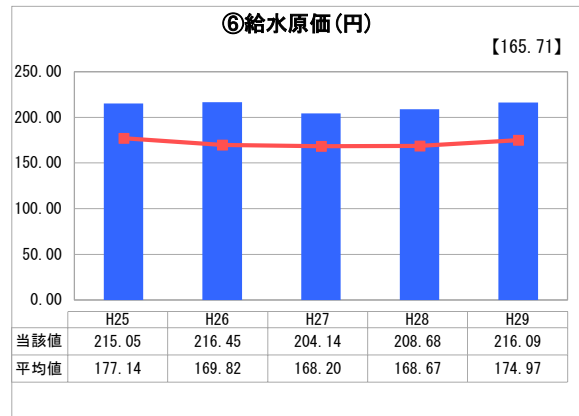
「支払能力」



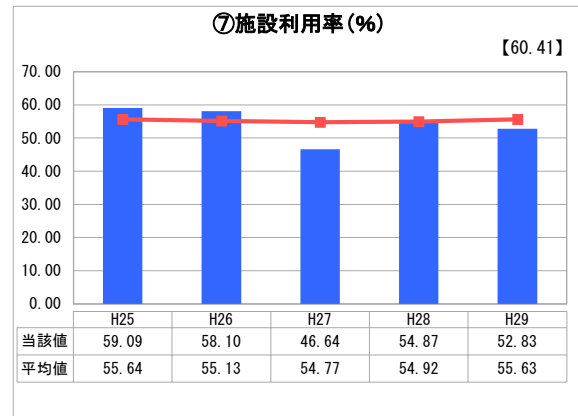
「債務残高」



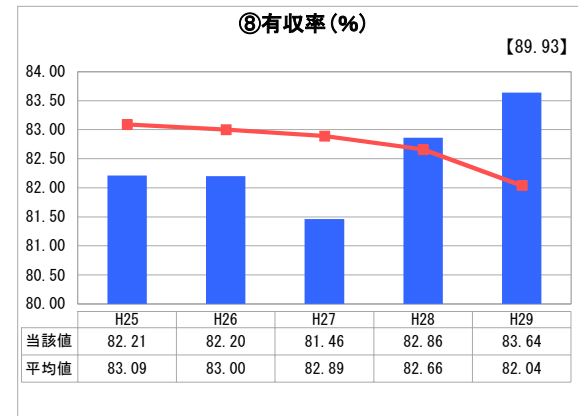
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

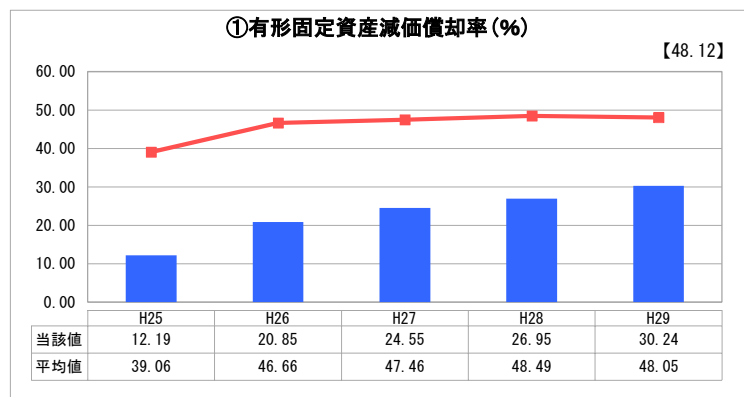


「施設の効率性」

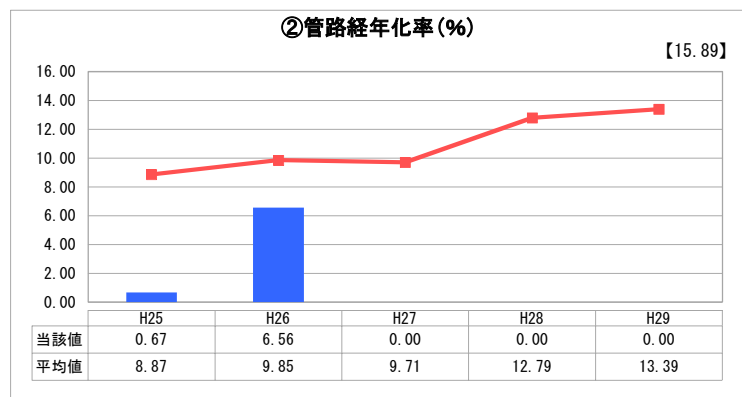


「供給した配水量の効率性」

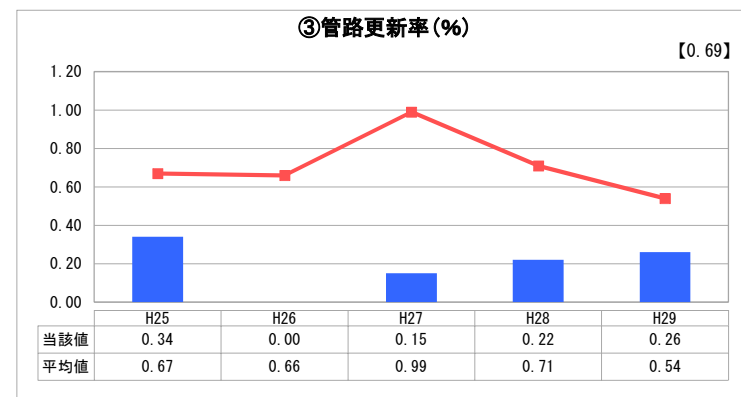
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、77.36%となり、100%未満となっており、前年度からは4.27ポイント減少している。今後も、効率的な運営に努め、維持管理経費の削減を図る必要があると考えている。

累積欠損金比率は、166.26%で、修繕費の増加により、前年度からは41.05ポイント増加している。なお、給水収益が減少傾向であることから、今後、料金の見直しが必要であると考えている。

流動比率は、117.03%となり、前年度からは8.44ポイント減少している。今後、現金の減少が見込まれることから注意が必要と考えている。

企業債残高対給水収益比率は、958.38%となり、前年度からは32.85ポイント減少している。類似団体と比較して、建設改良事業の財源のうち、企業債が占める割合が高いことによるものであり、今後も、この傾向は変わらないと考えている。

料金回収率は、65.34%となり、前年度からは2.14ポイント減少している。

また、給水原価は、216.09%となり、前年度からは7.41ポイント増加している。経常収支比率と同様に、効率的な運営に努め、維持管理経費の削減を図る必要があると考えている。

施設利用率は、52.83%となり、前年度からは2.04ポイント減少している。人口減少等により配水量は減少傾向にあるものの、季節変動もあり、規模縮小は難しいと考えている。

有収率は、83.64%となり、前年度からは、0.78ポイント増加している。今後も、漏水箇所の修理を行い、有収率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、30.24%となり、前年度からは3.29ポイント増加している。

管路経年化率は、平成29年度も0%となり、前年度からの増減は無い。

管路更新率は、0.26%となり、前年度からは、0.04ポイント増加している。

管路の更新は、全国的に進んでいないように思われるが、平成28年度にアセットマネジメント（中長期的な維持管理計画）を策定し、計画的な施設更新を実施することとしている。

全体総括

旧簡易水道区域のエリアが広く点在しており、地形的にも統合が困難であり、施設も多く管路延長も長くなり、経営改善は大変難しいのが現状である。

安全安心な水を供給するにあたり、維持管理経費の削減についても限界があること、また、人口の減少や節水志向により、有収水量の減少、給水収益の減少が大変大きな課題となっている。

今後、経営比較分析を踏まえ、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の検証、見直しを行うことで、課題の早期発見と早期解決を図り、健全経営につなげたいと考えている。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。